

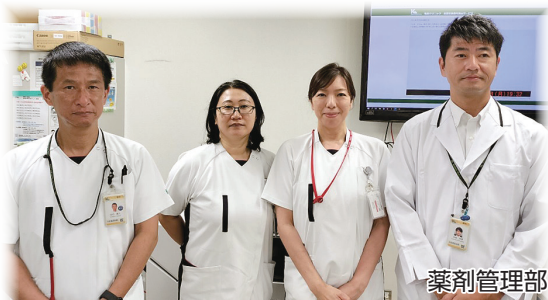
K
A
M
E
D
A

Department of
Pharmacy

Annual report
2020-2022

目次

① 病院概要	3	⑨ 教育・研修	12
② 薬剤部(治験管理センター含む)人員数		⑩ 試験・研究	14
③ 薬剤部2022年度業務実績	4	⑪ 薬剤師レジデント制度(TTSP)	
④ 薬剤部のミッション		⑫ 薬剤部イベント	16
⑤ 2022年度薬剤部目標		⑬ 海外発表	
⑥ ご挨拶	5	⑭ 国内発表	
⑦ 部内紹介	6	⑮ 業績	17
⑧ チーム医療	9	⑯ 専門・資格 (2022年4月1日現在)	27



薬剤管理部



院内調剤科



注射調剤科



製剤科



薬務科



DI科



化学療法科



臨床薬剤科



クリニック薬剤室



副作用情報センター

*本誌掲載写真は、撮影のため一時的にマスクを外しています

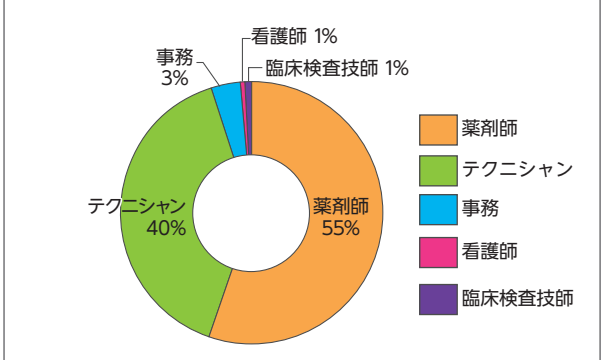
① 病院概要

2023.6.1 現在	
病床数	一般 865床 (うち開放病床 30床) 精神 52床
診療科数	35科
病棟数	27棟

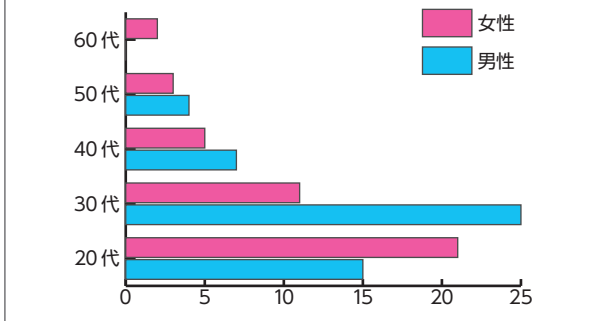
② 薬剤部(治験管理センター含む)人員数

2023.10.1 現在	
薬剤師数	93名
看護師数	1名
臨床検査技師	1名
薬剤テクニシャン	67名
事務	6名
	168名

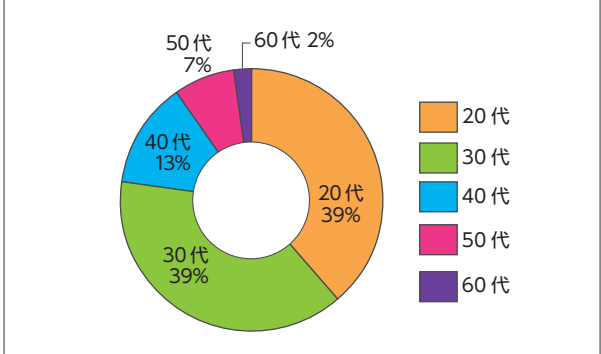
職種別割合 (2023.10.1 現在)



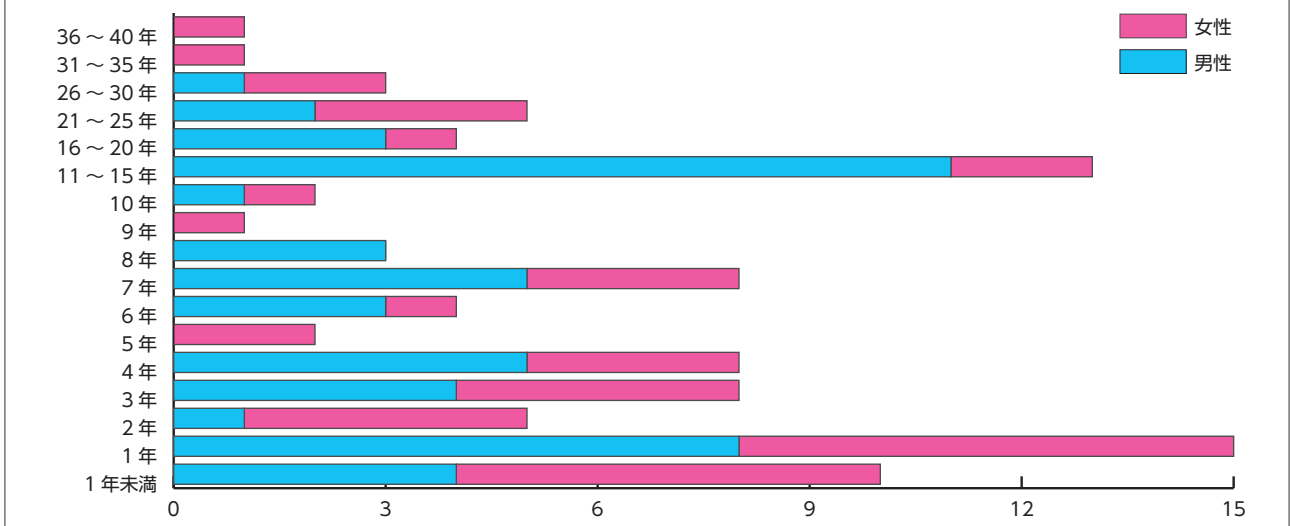
年代別薬剤師数 (男性51名、女性42名 計93名) (2023.10.1 現在)



薬剤師年代別割合 (2023.10.1 現在)

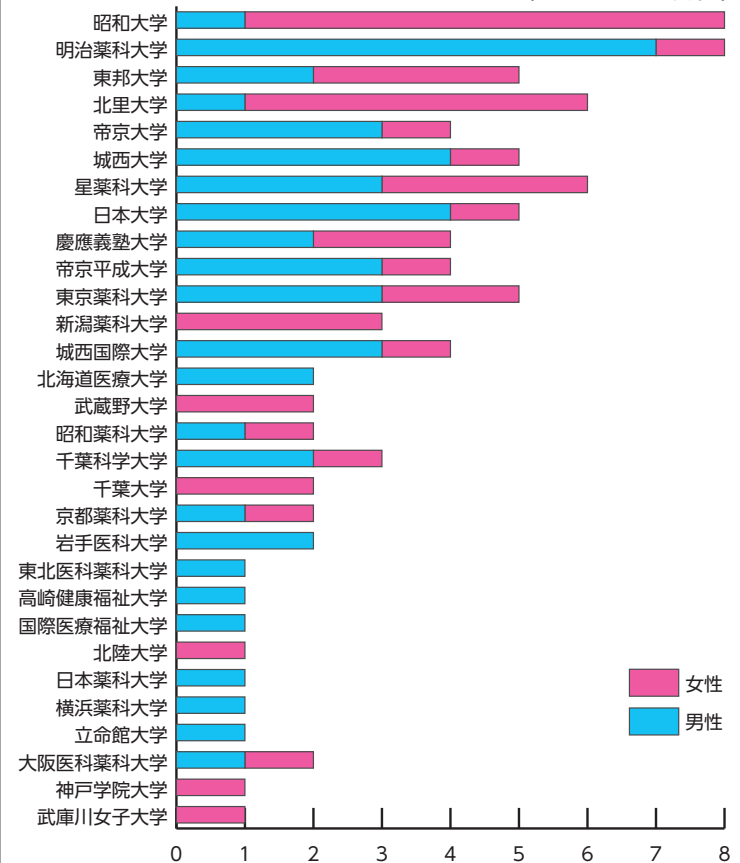


勤続年数別薬剤師数 (男性51名、女性42名 計93名) (2023.10.1 現在)

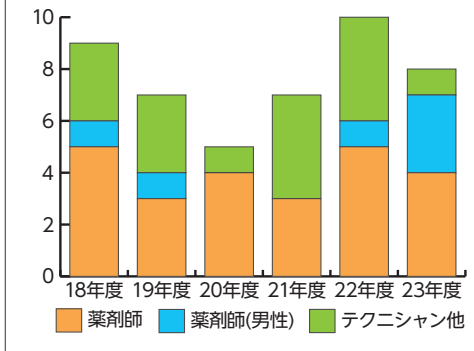


出身大学別薬剤師数 (男性 51 名、女性 42 名 計 93 名)

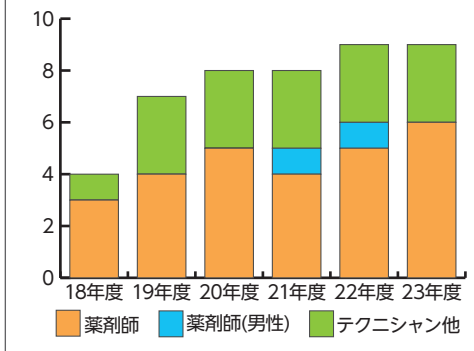
(2023.10.1 現在)



産前産後育児休暇 (パパ育休含む)取得状況 (2023.10 取得予定まで)



育児短時間勤務等 取得状況 (2023.10 取得予定まで)



③ 薬剤部2022年度業務実績

外来処方せん枚数	348,145 枚
入院処方せん枚数	160,801 枚
入院注射処方せん枚数	29,6697 枚
TPN 調製本数	5,572 本
抗がん剤混合調製本数	23,596 本
薬剤管理指導件数	9,211 件
麻薬管理指導件数	372 件

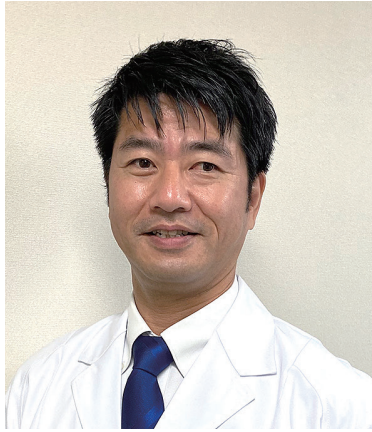
④ 薬剤部のミッション

我々は、全ての人々に安心、安全かつ最高水準の医療を提供するためにチーム医療における全ての薬物療法に責任を持つことを使命とする

⑤ 2022年度薬剤部目標

1. 医療費適正計画を推進する。
2. がん患者さまに対するケア、サービスを向上させる。
3. 他職種横断的連携を図り、病棟業務を充実させる。
4. 患者さま中心の切れ目のない薬物療法を展開する。
5. ICT を利活用した地域医療における医薬品情報の共有と活用を構築する。

6 ご挨拶



本職を満9年が経過しました。2015年は「対話と踏襲」、2016年は「課題把握と可視化」、2017年は「イノベーション」、2018年は「定着化」、2019年は「環境整備」、2020年は「助け合い」、2021年は「1人1人の薬剤師が1日に1回は患者さまに接することができる職場環境」、2022年は「無理無駄ムラをなくした持続可能な業務へのシフト」、2023年は「ICTを使った業務の推進から医療介護DXの推進への展開」をキーワードに確かな実践と効率化の推進に取り組んできました。当院の新型コロナウイルス感染症対応をめぐっては、2020年1月末に中国武漢市からのチャーター便帰国者を「人道的見地を優先」した受入から始まり、

感染対策が強化される一方で人と人との接触が薄まり、いわゆるモチベーションや人に感化されることが減りました。しかし、そのような中でもWEBを活用したつながりはどうにか続けてこられたのではないかと2023年は5月の5類移行に伴い、徐々に職員同士の直接的な会談や会食などをできる人は直接接することで不安を解消し、心理的安全性が定着されるものと改めて感じたところです。

教育の視点では、学会発表や論文投稿、各認定薬剤師取得へのチャレンジも新規報告数、取得者数も増え、5類移行後も対面とWEBミーティング双方を利活用し、継続することができました。卒前薬学教育についても、各薬科大学へのOSCE評価者・講師の積極的な派遣は継続でき、各医療機関で実習中止となる中、感染対策の徹底とWEBミーティングやe-learningを活用し全期間実習を滞りなく遂行することができました。また亀田メディカルセンターの特徴でもある国際交流は、新型コロナウイルスワクチン筋注の他国の教育制度の聴講、FAPAへ研修参加し、途切れることなく国際交流を無事参加することができました。

運営の視点では、デジタルツールを活用し、RPAやPower Automateを実装し、薬剤師のオンライン服薬指導や服薬フォローアップの展開も少しずつですが職場に定着することができました。

顧客の視点では、人員不足の中、可能な限りで術前外来・手術室・術後管理維持、外部薬剤師の常駐型の研修制度の試行的導入により地域薬剤師全体の質向上に貢献できました。

財務の視点では、支出抑制としてはDPC制度における後発医薬品係数、7剤通減率の抑制、適正使用ワーキンググループによる処方指針の拡充とポリファーマシー対策の着実な成果をあげることができました。2022年までの業績集としてまとめ、2024年は「場所を選ばない患者さまへの薬物治療の提供」をスローガンに掲げ、亀田メディカルセンター薬剤部は、メディカルセンターの理念に基づいて、すべての患者さまのすべての薬に関して責任を持ち、安心、安全かつ最高水準の医療に貢献することを使命として邁進してまいります。

医療法人鉄蕉会 医療管理本部 薬剤管理部 部長
亀田総合病院 薬剤部 部長
舟越亮寛

7 部内紹介

院内調剤科

入院中の患者さまおよび、救命救急センター、透析センター、化学療法センターなどの外来の患者さまが使用される内用薬・外用薬の調剤を24時間体制で行っています。鑑査においては、用法・用量、重複投与、相互作用などを確認していきます。調剤においては、薬袋自動作成機、全自動錠剤分包機、散剤鑑査システム、水剤鑑査システムへ同時に調剤情報が伝達され、業務の効率化を図ると同時に、調剤ミスを経験によって未然に防ぐようになっています。



注射調剤科

処方内容の評価・確認を行い、注射薬を調剤し供給しています。調剤にはピッキングマシンを使用しており、1施用ごとのセットを実施しています。中心静脈栄養液やがん性疼痛や術後疼痛に用いられる麻薬等のPCA(Patient Controlled Analgesia)ポンプの充填、末梢から投与する持続点滴用の注射薬を薬剤部のクリーンルーム、クリーンベンチ内にて混合調製して各病棟に供給しています。また、手術時に使用する麻酔用注射薬を標準的にセットして供給し、さらに手術室へ薬剤師が常駐することによって、周術期の患者さまに対して使用する薬剤の管理を行い、より品質の高い医療を提供しています。



クリニック薬剤室

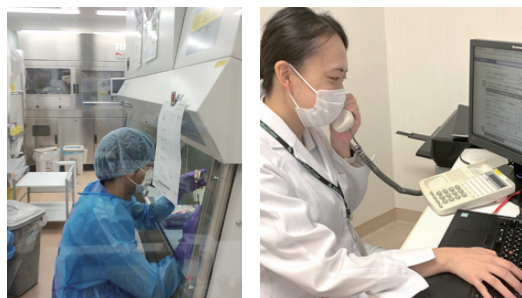
クリニック薬剤室では、主に外来調剤(1日平均1,400枚)、吸入薬の使用方法や成長ホルモンなどの自己注射の指導を行っています。お薬説明書を作成し患者さまに医薬品に関して必要な情報提供を行っています。

薬交付時の服薬説明とは別に、お薬相談室で吸入薬の使用法の説明(吸入指導)やピークフローメーターを用いた自己管理指導を行っています。また、成長ホルモン、偏頭痛の薬、糖尿病薬(GLP-1)などの自己注射指導および、白内障術前に使用する点眼薬の説明を実施しています。患者さまがお薬の相談を希望された場合も、お薬相談室にて対応しています。お薬相談は予約対応することもできます。



がん化学療法科

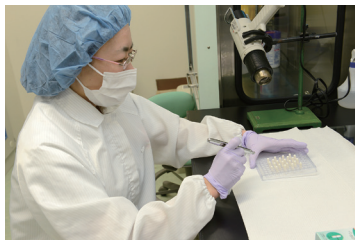
化学療法科では、がん化学療法を受けられる患者さまに安心安全な治療を提供しています。外来化学療法のオーダーは事前に薬剤師が院内登録レジメンに基づいて内容の確認を行います。またプロトコルに基づく薬物治療管理(PBPM)を活用し、薬物治療へ積極的に関わるように取り組んでいます。投与当日は、臨床検査値を参照し投与基準を満たすことを確認した後に調製を行います。抗がん剤の調製は入院・外来すべてを薬剤部で行います。完全室外排気型の安全キャビネットや閉鎖式接続器具、抗がん剤調製ロボットを使用し、調製者が安全に作業できる環境を整えています。化学療法開始前や、治療が変更になる場合は患者さまへの説明を実施し、治療開始後は副作用フォローアップおよび適切な支持療法の提案などを行っています。また、胎児への暴露を未然に防ぐ必要のあるサリドマイド製剤およびその誘導体に対し、安全管理の遵守状況を確認しています。特定薬剤治療管理料2の新設により、それらの管理・モニタリングをさらに強化し取り組んでいます。



製剤科

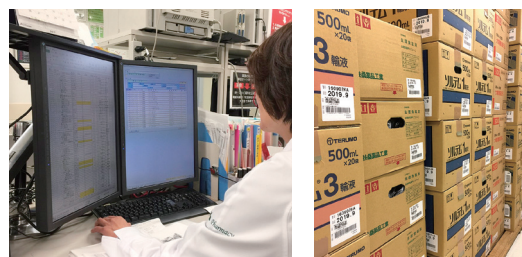
現時点で市販されていない薬剤に対して、文献や資料に基づき、かつ薬学・物理的な専門知識を活かして患者さまの病態やニーズに対応した院内製剤の調製を行っています。当院では現在約100種類の院内製剤の登録があり、医療現場に供給しています。

また、生薬を漢方薬抽出自動包装機や煎じポットを用いた漢方煎じ薬の調製も行っています。



薬務科

医薬品の供給に付随した業務全般が、経済的・合理的・かつ円滑に行われるように調整しています。具体的な業務の一部として、日々の在庫管理、発注業務を法律に則り、適正な在庫量を確保し、医薬品の品質が担保できるよう行っています。また、震災等の影響で医薬品の品薄への対応やインフルエンザ治療薬やワクチンの必要量の確保などに努めています。患者さまに安心、安全な医薬品を供給できるよう、また、在庫金額を考慮しながら業務を行っています。



DI科

DI(医薬品情報)科は、医薬品に関する様々な情報を収集し、評価をして、医薬品の適正使用に向けて医師等の医療従事者へ情報提供を行っています。また、当院では処方オーダーリングシステムや医薬品情報システムを活用しているため、これらのマスターや情報の管理も行っています。一方で、医師等からの問い合わせに対しては、医薬品情報の信頼性等を考慮しながら、根拠に基づいた回答を心がけています。さらに、DI科は薬事委員会の事務局も担っています。医薬品が製造販売承認された段階で資料等を収集し、製薬会社からヒアリングを行い、有効性や安全性、経済性等の観点から総合的に評価を行い、評価結果を薬事委員会でプレゼンテーションしています。また、最近では、採用後の安全対策が必要な医薬品については、関連診療科との合意の上で適正使用に向けた安全対策を実施し、採用後のモニタリング・評価を行い、より安心・安全な薬物療法が提供できるよう努めています。



臨床薬剤科 (病棟業務)

集中治療室および一般病棟に薬剤師が常駐し、持参薬管理、処方支援や注射薬の流速確認などの薬剤関連の業務とともに診療科カンファレンスへの参加や回診への同行なども行っています。また、ベッドサイドでの患者面談、診療録情報やフィジカルアセスメントから得られた情報を基に薬に関する問題点を抽出し、安心、安全な薬物治療を提供するために積極的に薬物治療へ参画しています。さらに、タスクシフティング・シェアリング業務の推進を行い、様々な方向からアプローチをすることに挑戦しています。



臨床薬剤科 (TDM : Therapeutic Drug Monitoring)

TDMとは、薬物血中濃度を測定し効果・副作用に関連する様々な因子をモニタリングしながら、それぞれの患者さまに個別化した薬物治療を行うことです。

当院では、年間5,500件近くの薬物血中濃度測定が実施されています。その多くはタクロリムス、シクロスポリンなどの免疫抑制薬やバンコマイシン塩酸塩をはじめとした抗菌薬です。その他、抗てんかん薬、ジゴキシン、テオフィリン、メトトレキサート、リチウムのTDMも行っております。入院/外来に関わらず、薬物血中濃度測定の実施された全ての患者さまにおいて即日TDMレポートを作成し、薬剤師から担当医へコメントを伝えています。

臨床薬剤科 (ICU : Intensive Care Unit ; 特定集中治療室)

当院のICUは、特定集中治療室管理料2の施設基準を満たし、集中治療科医によるclosed ICU体制をとっています。専任の薬剤師を2013年より配置し、現在は病棟薬剤業務実施加算2を算定しています。刻々と変化する患者さまの状態に合わせ、薬物治療が有効かつ安全に行われるよう、回診の参加・ベッドサイドでの薬剤の効果や副作用のモニタリング・TDMを積極的に行い、医師、看護師、臨床工学技士、管理栄養士、臨床検査技師らと連携してチーム医療を実践しています。



臨床薬剤科 (NICU : Neonatal Intensive Care Unit ; 新生児特定集中治療室)

NICU(Neonatal Intensive Care Unit ; 新生児特定集中治療室)は、早産児や低出生体重児、または何らかの疾患のある新生児が、治療のために入る集中治療室です。

当院では、2012年よりNICUでの病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務を開始しました。調剤部署へ処方せんが出力される前の投与量や流量計算の実施、配合変化等を考慮したルート設計、TDM、保護者への薬剤説明、医師・看護師らからの問い合わせ対応などを行っています。



副作用情報センター

当センターは、亀田メディカルセンター内で発現した医療用や一般用(OTC)医薬品による副作用症例を収集し、その情報を一元管理することによって、医薬品の安全性を継続的にモニターし、患者さまが同様な副作用による被害を起こさないことを目的としています。また調査した副作用症例はPMDAに報告しています。

治験管理センター

治験管理センターは、GCPに基づき治験の品質管理・品質保証を確立し、適切に実施するための施設環境の整備・関連各種システム構築とその実行をする部門として、1999年4月に設置されました。

構成員は、センター長(薬剤部長兼務)、CRC(治験コーディネーター)、事務員です。CRCは治験を適正に実施するために治験責任医師を支援しながら治験全体をコーディネートしています。具体的には、外来の治験では診察に立ち会い、被験者さまの来院スケジュール調整や、治験担当医師が治験調査項目を漏れることなく実施・記録しているかを確認します。治験依頼者が直接治験担当医師に問い合わせを行う場合、CRCは面会の日程調整や、問い合わせ内容の確認・記録等を行います。また、新しい治験がスタートする際は、医局説明会をセッティングします。



PET・RI (放射性医薬品の調製及び品質管理業務)

日本核医学会が認定する適切な学会あるいは団体が主催する講習会を受講した薬剤師が、放射性医薬品取り扱いガイドラインに基づき、核医学検査に用いられる様々な放射性医薬品の監査・調製を行っています。

また、亀田PET-CTセンターにおいて、各専門分野で定められた品質管理基準に基づきPET検査薬の[F18]FDGの品質管理業務を行っています。担当薬剤師は、医師、看護師、技師など放射線領域に関わる医療従事者と連携し、病院薬剤師業務としての新しい職能を発揮しています。



⑧ チーム医療

感染対策チーム (ICT : Infection Control Team)

ICTの薬剤師は、消毒薬などの適正使用や清潔な医薬品の供給などを中心に、様々な感染症を広げない感染防止対策の教育的役割として活動しています。また地域連携を重要視しており、地域から相談も受けています。



抗菌薬適正使用支援チーム (AST : Antimicrobial Stewardship Team)

ASTは不要な抗菌薬の使用を減らし、薬剤耐性菌の発生を遅らせ、さらに医療費を抑制することを目標として活動しています。ASTでは薬剤師が主導となり抗菌薬の使用状況を把握し、適正使用に促すよう情報提供しています。また病棟担当薬剤師と協同して抗菌薬投与の初期から投与量の評価を行うことで感染症治療に貢献しています。採用抗菌薬の絞り込みや、使用制限等のレギュレーションの整備も重要な役割です。

栄養サポートチーム (NST : Nutrition Support Team)

NST 専門療法士が中心となり、電解質や高カロリー輸液などの管理に加えて経腸栄養に関する問題点についても薬学的観点から介入を行っています。また、嚥下に関する問題点についても嚥下回診に同行し、薬剤師の視点からの提案も行っています。



緩和ケアサポートチーム (PCT : Palliative Care Support Team)

PCT 薬剤師は、医師や看護師、チャプレン等と協働して疼痛などの苦痛症状を緩和できるように、薬学的な知見を中心に薬物療法や非薬物療法の推奨提案を行い、より適切な緩和ケアが提供できるように日々活動しています。



腎移植チーム

腎移植では免疫抑制剤、降圧薬、抗菌薬など服用する薬剤は多岐に渡ります。治療の有効性、安全性を確保するためには薬物治療モニタリング (TDM) や薬物相互作用など様々な専門知識が必要となり、薬剤師はチーム医療の中で術前から術後を通して重要な役割を担っています。

血液・腫瘍内科チーム

がん治療は手術、放射線、薬物治療を組み合わせた集学的治療を要し、薬剤師への期待が大きい分野です。血液・腫瘍内科では薬剤師が化学療法実施当日の患者さまへの面談を行い、得られた情報と薬学的な知見から必要な検査の追加の推奨を医師、看護師を含めたチームへ実施することで、がん化学療法の有効性や安全性に貢献しています。

精神科リエゾンチーム

精神科リエゾンチームは精神科に携わる多職種で構成され、主に身体疾患患者さまの精神症状を対象に、毎週チーム回診、カンファレンスを実施しています。薬剤師は個々の患者さまへの投与量・剤形提案などの薬学的な介入を行い、他職種への情報提供・教育も行っています。また得られた情報を担当病棟の病棟薬剤師へ情報提供を行い、薬剤師間での連携をとり、よりよいファーマシューティカルケアの提供に貢献しています。

骨粗鬆症^{しょう}リエゾンチーム

骨粗鬆症は未治療の患者さまが多いとともに、その治療においては、服薬継続率の低さが問題となっています。そこで骨粗鬆症リエゾンチームは、入院から外来、地域医療へとシームレスな連携がとれるよう活動しています。その中で、薬剤師は骨粗鬆症の治療における服薬の必要性や服薬継続の意義、それぞれの薬の特徴について、患者さまにわかりやすい説明書を作成し説明を行っています。

心不全チーム

2013年4月の多職種による心不全チームの立ち上げから薬剤師が関わり、心不全急性増悪で入院された患者さまに対し、薬剤指導を通して患者教育を行い、心不全カンファレンスの中で薬物治療に関する推奨を行っています。チームとしては、2018年4月から新たな試みとして疼痛・緩和ケア科の医師、看護師にもカンファレンスに参加していただき、心不全患者さまの緩和ケアのサポートを実施しています。

薬剤部周術期管理チーム

医療の高度化・多様化、また高齢化により、周術期医療には様々な職種の連携が求められています。周術期医療への薬剤師の参画は医療の質を高めるために重要視され病院運営の面でもニーズが高まっています。各病棟における術後患者さまに対する薬物療法への介入に加え、2017年11月より術前外来、2018年9月より手術室常駐を開始し、術前・術中・術後と切れ目のない周術期薬物療法を担っています。

コードブルーチーム

患者さまの急変時には、院内緊急招集(コードブルー)がかかり、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士で構成された蘇生チームが参集します。薬剤師もその一員として、24時間365日患者さまの元へ駆けつけ、蘇生の最前線で活動します。薬剤師は、蘇生時に必要な薬剤を装備したエマージェンシーバッグを搬送し、迅速な医薬品の供給と適正使用の推進に努めています。また、平時より薬剤師はBLS、ACLSスキルを身につけ、他職種と連携することで救命活動の貢献に努めています。



救急外来

当院の救急外来では、多職種が各職種の専門性を活かし、患者さまの対応に携わっています。その中で薬剤師は救急車で搬送される重症度の高い患者さまの対応に携わっており、薬物治療を中心とした業務を行っています。



糖尿病教室

糖尿病教室は入院・外来患者さまとご家族を対象に医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、運動療法士が協力して行っています。月曜日が薬剤師担当で13時30分～15時まで「糖尿病の薬について(インスリン自己注射の実際)」というテーマで講義を行っています。

災害派遣医療チーム (DMAT : Disaster Medical Assistance Team)

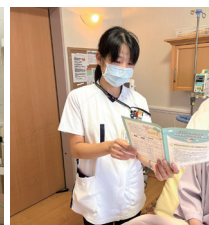
2005年のDMAT結成時より薬剤師として関わり、医薬品の選定および管理を担っています。東日本大震災、鬼怒川の洪水災害では、当日中に現地入りしDMAT活動を行うなど積極的に活動しています。

※DMAT登録者の退職に伴い一時薬剤師の参加を休止していましたが、2023年度より再開しています



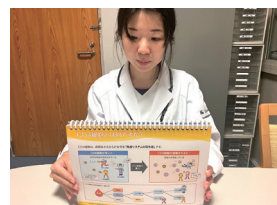
総合周産期母子医療センター

当院にはLDR6床、MFICU14床、NICU9床、GCU18床があり、県南の基幹病院として母児双方の健康に貢献しています。産科では妊娠中や授乳中の薬物療法が及ぼす影響について情報提供を行い、また新生児科においては投与量、投与ルート、相互作用の確認などを行っています。



HIV感染症治療チーム

HIVの治療は、アドヒアランスの維持が非常に重要になります。薬剤師は継続的に面談を行い、服薬に関するサポートをしています。また、患者指導を通して得た情報や問題点等は、カンファレンスで他職種と共有し、チームで患者さまの治療を支えています。



9 教育・研修

教育担当者会

当院薬剤部では、教育担当者会が週に一度設けられており、長期実務実習についての話し合いや様々な内容に関する研修会の立案等を行っています。長期実務実習においては、学生からの意見（例えば、当院で特に学びたいことなど）を大事にしながら、実習生がより良い環境でより多くのことを学べるように話し合っています。研修会については、鴨川という土地柄でも薬剤師としての自己研鑽を行うことができるように、新薬説明会やTDMセミナー、また外部講師を招いた勉強会など幅広い内容についての計画を立てており、研修単位もきちんと取得できるように考えています。

新人研修

実習生だけでなく、新人薬剤師に対しても教育制度がしっかりと構築されています。薬剤部には様々な部署が存在するため、その部署ごとに対象とする疾患や患者さまがそれぞれ異なる部分もあり、取り扱う薬剤も様々であるため、覚えなければならないことが多く存在します。そのため薬剤部では、1、2年目薬剤師がそれぞれの部署を約2年間ローテーションして日常業務を行いながら、様々な処方内容を見て患者さまに接することで、基礎的な知識や技能を身につけることができるような教育制度を構築しています。特に、1年目薬剤師には日常業務をこなすだけでなく、長期実務実習のSBOsのような評価項目に基づいて、それぞれの部署でそれらの評価を全て達成できるように上級薬剤師が教育しています。2年間のローテーション後は、自分が一番興味を持てる分野に携わる部署に配属希望することも可能です。

2022年度 1年目薬剤師研修スケジュール

		1週目+3週目の講義以外の日を 1週間としてカウント			5/3~5は祝日、4週目+5週目を 1週間としてカウント				室長との定期面談①							
		1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目	7週目	8週目	9週目	10週目	11週目	12週目	13週目		
		4/7~9	4/11~	4/18~	4/25~	5/2~	5/9~	5/16~	5/23~	5/30~	6/6~	6/13~	6/20~	6/27~		
1G	薬剤師A	オリエンテーション (終了次第研修開始)	院内	レジメン チェック 講義	院内	院内	院内	院内	院内	注射	注射	注射	注射	注射 / 治療		
	薬剤師B															
	薬剤師C															
2G	薬剤師D (TTSP)		注射		院内	院内	院内	院内	院内	院内	院内	注射	注射	注射	注射 / 治療	CL
	薬剤師E															
	薬剤師F															
3G	薬剤師G		CL		院内	院内	院内	院内	院内	院内	院内	注射	注射	注射	注射	注射
	薬剤師H (TTSP)															
	薬剤師I															
	薬剤師J															
	薬剤師K		製剤 / 業務		院内	院内	院内	院内	院内	院内	院内	注射	注射	注射	注射	注射
薬剤師L (TTSP)																
薬剤師M																
薬剤師N																

		室長との定期面談②									
		14週目	15週目	16週目	17週目	18週目	19週目	20週目	21週目	22週目	
		7/4~	7/11~	7/19~	7/25~	8/1~	8/8~	8/15~	8/22~	8/29~9/3	
1G	薬剤師A	注射 / 治療	注射	注射	注射	注射	注射	注射	注射	注射	
	薬剤師B										
	薬剤師C										
	薬剤師D (TTSP)										
2G	薬剤師E	CL	製剤 / 業務	院内	院内	院内	院内	院内	院内	院内	
	薬剤師F										
	薬剤師G										
	薬剤師H (TTSP)										
3G	薬剤師I	注射	注射	注射	注射	注射	注射	注射	注射	注射	
	薬剤師J										
	薬剤師K										
	薬剤師L (TTSP)										

クリニック(CL) 薬剤室研修(2週間)
・窓口業務などCL薬剤室でしか研修できない内容を行う。

夜勤、休日出勤研修(9月、10月)
・夜勤(2回) 8時出勤翌日8時まで勤務(仮眠あり)
・休日(1回)
・11月~夜勤、休日出勤開始

院内調剤科、薬務科、製剤科研修(8週間)

- ・「院内」のスケジュールには、製剤科研修(7日間)を含む(該当週を「製剤/業務」と表示)。ただし、研修評価は「院内」のスケジュール内の17時以降に行う。
- ・「院内」のスケジュールには、薬務科研修(3日間)を含む(該当週を「製剤/業務」と表示)。

注射調剤科、化学療法科研修(10週間)

- ・レジメンチェック講義：4~5日を用いて集中講義を実施する。レジメンチェック講義の週で余った日は1週目の部署で研修を行う。
- ・「注射」のスケジュールには、化学療法科研修(2週間)を含む(該当週を「注射/治療」と表示)。
- ・化学療法科の研修日は、8時~11時、14時~17時が化学療法科、11時~14時が注射調剤科シフトとなる。

📅 2022年度後期 1年目薬剤師ローテーション

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
薬剤師A	DI/院内調剤科	注射調剤科	注射調剤科	CL 薬剤室	CL 薬剤室	臨床薬剤科	臨床薬剤科(K1) / 副作用情報センター	化学療法科	院内調剤科/DI
薬剤師B	院内調剤科/DI	DI/院内調剤科	注射調剤科	注射調剤科	CL 薬剤室	CL 薬剤室	臨床薬剤科	臨床薬剤科(K1) / 副作用情報センター	化学療法科
薬剤師C	化学療法科	院内調剤科/DI	DI/院内調剤科	注射調剤科	注射調剤科	CL 薬剤室	CL 薬剤室	臨床薬剤科	臨床薬剤科(K1) / 副作用情報センター
薬剤師E	臨床薬剤科(K1) / 副作用情報センター	化学療法科	院内調剤科/DI	DI/院内調剤科	注射調剤科	注射調剤科	CL 薬剤室	CL 薬剤室	臨床薬剤科
薬剤師F	臨床薬剤科	臨床薬剤科(K1) / 副作用情報センター	化学療法科	院内調剤科/DI	DI/院内調剤科	注射調剤科	注射調剤科	CL 薬剤室	CL 薬剤室
薬剤師G	CL 薬剤室	臨床薬剤科	臨床薬剤科(K1) / 副作用情報センター	化学療法科	院内調剤科/DI	DI/院内調剤科	注射調剤科	注射調剤科	CL 薬剤室
薬剤師I	CL 薬剤室	CL 薬剤室	臨床薬剤科	臨床薬剤科(K1) / 副作用情報センター	化学療法科	院内調剤科/DI	DI/院内調剤科	注射調剤科	注射調剤科
薬剤師J	注射調剤科	CL 薬剤室	CL 薬剤室	臨床薬剤科	臨床薬剤科(K1) / 副作用情報センター	化学療法科	院内調剤科/DI	DI/院内調剤科	注射調剤科
薬剤師K	注射調剤科	注射調剤科	CL 薬剤室	CL 薬剤室	臨床薬剤科	臨床薬剤科(K1) / 副作用情報センター	化学療法科	院内調剤科/DI	DI/院内調剤科
薬剤師D(TTSP)	DI / 副セン	臨床薬剤科	副セン / DI	TTSP 研修					
薬剤師H(TTSP)	副セン / DI	DI / 副セン	臨床薬剤科						
薬剤師L(TTSP)	臨床薬剤科	副セン / DI	DI / 副セン						

DI/院内調剤科	(AM) DI科 (PM) 院内調剤科
----------	------------------------

院内調剤科 / DI	(AM) 院内調剤科 (PM) DI科
------------	------------------------

臨床薬剤科(K1) / 副作用情報センター	臨床薬剤科(K1) : 4時間 副作用情報センター : 4時間
-----------------------	------------------------------------

<補足説明>

○副作用情報センターの研修時間を2021年度から下記に変更しました。

DI科研修中(化学療法/DI、DI/化学療法)に1週間、3時間/日(計18時間)で行う。 → 臨床薬剤科研修中に4時間/日で行う。

○新規に「臨床薬剤科(K1)」の研修を追加しました。

病棟薬剤業務実施加算算定継続にあたり臨床薬剤科への人員配置が十分ではないことを考慮し、また臨床薬剤科ローテーション前に初期アセスメントとしてのKタワー1階アセスメントカウンターを経験することが有用であると考え、今年度は「臨床薬剤科(K1)」を追加しました。

メンター制度

1、2年目薬剤師に対してはメンター制度を導入しています。慣れない環境の中で様々な新しい事を覚えなければならない1年目薬剤師が悩みやストレスをため込まないように、年齢が一番近い2年目薬剤師が何でも相談にのれるように体制を組んだものです。2年目薬剤師は、1年目薬剤師同様にそれぞれの部署でローテーションしているため、1年目薬剤師が相談しやすく、何でも話せる環境を整えています。



国際交流の取り組み

薬剤師レジデントによる海外研修実績等がありますが、薬剤部でも2018年より海外研修生の受け入れを行いました。2018年はマレーシア、韓国、台湾から薬剤師を受け入れ、海外研修生の研修目的および期間に合わせた内容にしています。2019年は相互交流として、当院薬剤部員が台湾大学病院で研修し、海外の薬剤師の職能、薬学教育、医療制度等を学びました。このような取り組みは、日本や自施設の医療や医療体制について考える非常によい機会となります。薬剤部の国際交流はまだ走り出したばかりですが、亀田総合病院には海外に挑戦できる環境が充実しています。



10 試験・研究

臨床における治療は、日々Updateされています。そのため、薬剤師は日々自己研鑽を行い、新たな薬物治療について情報収集し続ける必要があります。当院では、病院内で様々な診療科・部署主催の講演会が開催されており、業務後に最高水準の医療についてのレクチャーを受けることができます。また、院内の勉強会に限らず、県内・県外の研修会に参加すると共に多くの薬剤師が自身の研究テーマについての学術発表を行っています。さらに、社会人大学院への進学や専門・認定薬剤師取得へのキャリアパスへのサポートも行っており、大学とも提携し、臨床研究を技術面からサポートしてもらえ環境も整っています。

11 薬剤師レジデント制度(TTSP)

目的

TTSPとは、Transdisciplinary Transition Support Programの略称であり、職種を超えて横断的な教育を受けることで、臨床における幅広い知識と技術の習得を図り、病院内の様々な職種と連携してチーム医療において活躍できるプロフェッショナルスキルと高い倫理観をもった薬剤師の養成を目的としたプログラムです。

活動内容

2年間の研修で調剤業務や病棟薬剤業務等といった病院薬剤師としての基本的な知識・技術・態度を身につけることは当然のことながら、初期研修医と同等の研修を行うことで、診断・治療の過程を



学び、共通言語の理解だけでなく、医療人として視点の育成・視野の拡大を目指します。さらに、看護師・臨床検査技師・管理栄養士などとの研修を通して、コメディカルについての理解を深めます。

教育・研究として臨床の場で直面した薬物治療における問題点を解決するプロジェクトを立ち上げ、研究課題として遂行することで問題解決能力を身につけ、院内の勉強会の講師を担ってもらうことで教育のスキルも身につけることができます。海外を含めた他施設での研修も実施しており、タイ王国のChulalongkorn UniversityやシンガポールのNational University Hospitalでの海外研修の実績があります。風土・文化・法律が異なる医療に触れ、薬剤師の役割について広い視野で見つめ直す機会もあります。

📎 TTSPおよび一般職員の研修スケジュール

1年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般職員	薬剤部セントラル業務研修					DI研修、副作用情報センター研修、病棟研修、入院アセスメントカウンター研修、休日出勤研修			夜勤研修 セントラル業務リカレント研修 (ローテーション)			
TTSP	薬剤部セントラル業務研修					DI研修、副作用情報センター研修、病棟研修			他部署研修		研修 まとめ	

2年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般職員	セントラル業務リカレント研修(ローテーション) 病棟研修(2か月) 休日出勤・夜勤業務 ※採用人数により調整あり											
TTSP	薬物療法専門・がん専門薬剤師修練コース	医師・診療科研修： 感染症科、呼吸器内科、救命救急科、集中治療・心臓血管外科、血液・腫瘍内科								海外研修	研修まとめ 学術発表	
	地域薬学ケア薬剤師修練コース	医師・診療科研修： 感染症科、脳神経内科、循環器内科、疼痛・緩和ケア科						在宅事業部研修	在宅関連薬局等	海外研修	研修まとめ 学術発表	
	小児・周産期領域専門薬剤師修練コース	医師 診療科研修： 感染症科、小児科、産婦人科、NICU、生殖医療科								保険薬局	海外研修	研修まとめ 学術発表

* コースおよび年度により研修内容は異なります。

詳細は、TTSPホームページをご覧ください。 URL (<https://www.kameda-resident.jp/pharmacist/index.html>)



12 薬剤部イベント

* Instagram 公式アカウント



https://www.instagram.com/kameda.yakuzai_official/?hl=ja

* Facebook 公式アカウント



<https://www.facebook.com/kameda.yakuzai/>

13 海外発表

The Federation of Asian Pharmaceutical (FAPA)



2022.11.10-
in Kuala Lumpur,
Malaysia

14 国内発表

日本病院薬剤師会関東ブロック第50回学術大会

2020年
10月31日~11月8日
Web開催



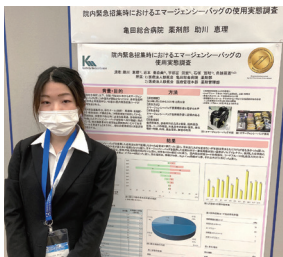
第24回日本医療マネジメント学会学術総会

2022年
7月8日~9日
神戸市



日本病院薬剤師会関東ブロック第52回学術大会

2022年
8月20日~21日
横浜市



第32回日本医療薬学会年会

2022年
9月23日~25日
前橋市



日本臨床腫瘍薬学会学術大会2023 (JASPO)

2023年
3月4日~5日
名古屋市



【2020年度】

<学術関係発表者>

1) 原著論文・症例報告

- ・ Yoshiaki Yokoyama
Chorea-like symptoms and high blood concentration of ceftriaxone in a patient undergoing hemodialysis: A case report.
Naoto Hosokawa, Toshiyuki Kudo, Hitomi Goda, Kiyomi Ito, Masanori Suzuki, Ryohkan Funakoshi
Journal of Infection and Chemotherapy, 26(3), 285-8(2020)
- ・ 船木麻美
CD34陽性細胞測定に基づくプレリキサホルの投与に関する経済性評価
伊勢崎竜也、川名真理子、舟越亮寛、亀井美和子
医療薬学、46,341-353(2020)
- ・ 渡部和幸
神経性やせ症に合併した便秘に対して麻子仁丸が有効であった一症例
平田一耕、大上俊彦、舟越亮寛、石毛敦
日本精神薬学会誌、4(1),50-56(2020)
- ・ 平田一耕
Droperidol Reduces Postoperative Nausea and Vomiting and Supports the Continuation of Intravenous Patient-Controlled Analgesia with Fentanyl.
Ikkou Hirata, Masahiro Iwamoto, Hiroki Matsui, Hiromi Yoshinuma, Ryohkan Funakoshi.
J Pharm Pharm Sci, 23, 220-230, 2020.
- ・ 平田一耕
小腸部分切除後の癒着性腸閉塞に対して茯苓飲を使用し手術回避となった1症例
平田一耕、舟越亮寛、石毛敦
日本病院薬剤師会雑誌 56,57-60,2020.
- ・ Yoshiaki Yokoyama
Review of the first comprehensive outpatient parenteral antimicrobial therapy program in a tertiary care hospital in Japan
Ryota Hase, Yoshiaki Yokoyama, Hiroyuki Suzuki, Shunsuke Uno, Takahiro Mikawa, Daisuke Suzuki, Kiyoharu Muranaka, Naoto Hosokawa
Int J Infect Dis. 2020 Jun;95:210-215.

2) 雑誌関連

- ・ 川名真理子
第218回新薬くろ〜ずあつぷ 「エベレンゾ錠 20mg、50mg、100mg (ロキサデュスタット)」
調剤と情報、26,9,1674-1682 (2020)
- ・ 川名真理子
慢性疾患治療薬の使い分けと患者モニタリング 「気管支喘息」
調剤と情報、26,15,2654-2663 (2020)
- ・ 舟越亮寛
今日の治療指針 2021年版 「2021年版—私はこう治

療している」今日の治療指針：服薬指導・薬剤情報

- ・ 舟越亮寛
「2020年度診療報酬改定 監修」
医療関係者向け情報サイト「MINKweb」
- ・ 舟越亮寛
「エキスパートインタビュー」
医療関係者向け情報サイト「診療報酬infoナビ」
- ・ 舟越亮寛
【書評】「薬歴・指導記録の書き方」(編著：寺沢匡史)
薬局 2020 Vol.71 NO1

3) 学会・研究会発表

- ・ 和泉早矢香、鈴木正論 (共著)
高齢入院患者におけるフレイルと不適切処方との関連
森崎結香子、佐藤雅貴、和泉早矢香、鈴木正論、舟越亮寛、真野泰成
第140回日本薬学会年会

4) 講演・シンポジウム

- ・ 舟越亮寛
シンポジウム12「副作用自発報告の推進と質の向上に向けて」
第41回日本病院薬剤師会近畿学術大会
2020年2月16日
- ・ 舟越亮寛
シンポジウム29「患者安全の確保に期待される薬剤師の役割 有事対応と平時の活動について」
第30回日本医療薬学会年会 WEB開催
2020年10月24日
- ・ 舟越亮寛
シンポジウム45「患者安全視点で捉え直す周術期薬物療法管理」
第30回日本医療薬学会年会 WEB開催
2020年10月24日
- ・ 舟越亮寛
シンポジウム54
「地域包括ケアシステムにおける患者と医療をエビデンスで支える地域フォーミュラリーのススメ」
第30回日本医療薬学会年会 WEB開催
2020年10月24日
- ・ 舟越亮寛
シンポジウム1 「今こそ考えよう！これからのRMPの役割～公表開始から7年経って～」
日本病院薬剤師会 関東ブロック第50回学術大会 ライブ配信
2020年10月31日
- ・ 舟越亮寛
シンポジウム6「医療安全文化の醸成」
日本病院薬剤師会 関東ブロック第50回学術大会 ライブ配信
2020年10月31日
- ・ 舟越亮寛
シンポジウム5
「医薬品の適正使用について～医療従事者が医薬品の適

正使用の重要性を認識するためのシンポジウム～
第41回日本臨床薬理学会学術総会
2020年12月3日

5) 講師

- ・ 横山泰昭
 亀田総合病院におけるASTと薬剤師
 城西国際大学薬学部 病院機能特論
 2020年9月17日
- ・ 川名真理子
 わたしのキャリアパスと医薬品情報(DI)の活用
 2020年度第2回「なの花アカデミー」集合研修会
 2020年10月25日
- ・ 舟越亮寛
 医療安全を推進するリスクマネジメント(医薬品安全管理)
 茨城県病院薬剤師会 令和元年度会員賛助会員合同研
 修会
 2020年1月11日
- ・ 舟越亮寛
 信州大学医学部附属病院薬剤部 令和元年度第3回薬
 剤部公開セミナー
 2020年1月24日
- ・ 舟越亮寛
 薬の評価と選択について
 富山県病院薬剤師会 令和2年度富山県病薬研修委員
 会第1回研修会
 2020年8月15日
- ・ 舟越亮寛
 医療機関・薬局における薬剤師業務研究の進展と医療
 情報への期待
 第40回医療情報学連合大会/第21回日本医療情報学
 会学術大会
 2020年11月20日
- ・ 舟越亮寛
 医薬品安全管理責任者の責務について
 日本病院薬剤師会 令和2年度医薬品安全管理責任者
 等講習会(基礎編) WEB
 2020年11月28日
- ・ 舟越亮寛
 医療安全対策委員会の取り組みについて～医療安全に
 関する最近の話題～
 日本病院薬剤師会 令和2年度医薬品安全管理責任者
 等講習会(本編) WEB
 2020年11月29日
- ・ 舟越亮寛
 術後合併症予防の質向上のための薬剤師の必要性
 第42回日本手術医学会総会
 2020年12月4日

6) 講義・研修実績

<院外>

- ・ 亀田医療大学講義(全7回)
- ・ 亀田医療技術専門学校講義(全8回)

<院内>

- ・ 看護部向け講義(ナースのための薬学講座)(全9回)
- ・ 集中講義(全8回)
- ・ 特定行為に関する講義(全9回)

7) 座長・オーガナイザー・司会

- ・ 舟越亮寛
 南房総臨床薬学セミナー
 2020年2月13日、12月13日
- ・ 舟越亮寛
 南房総臨床薬学Webセミナー
 2020年5月10日、9月3日、10月8日、10月9日、
 11月12日、12月10日
- ・ 舟越亮寛
 神奈川千葉臨床薬学Webセミナー
 2020年7月17日
- ・ 舟越亮寛
 安房薬剤師セミナー
 2020年10月16日

8) その他

- ・ 岡田拓朗
 他分野から見た公認スポーツ栄養士の役割 他職種の
 役割とスポーツ栄養士との連携 スポーツファーマシ
 スト
 エssenシャル スポーツ栄養学(日本スポーツ栄養学
 会監修)、14-1
- ・ 舟越亮寛
 千葉県薬業団体連絡協議会(令和2年度「薬と健康の
 週間」における表彰)
 表彰内容:一般社団法人千葉県病院薬剤師会長表彰

[2021年度]

<学術関係発表者>

1) 原著論文・症例報告

- ・ 阿部誠也
 小児におけるバルプロ酸ナトリウム細粒製剤使用患者
 を対象とした薬剤交付後の医薬品管理の実態調査
 川名真理子、舟越亮寛
 医薬品情報学、22,169-176(2021)
- ・ Takanori Inagaki
 Viability of a Serum Infliximab Concentration-
 Detecting Reagent as a Qualitative Assay for an
 Infliximab Biosimilar
 Tatsuya Isesaki, Kumi Kawana, Ryohkan Funakoshi
 Biol.Pharm.Bull.,44,1272-1279(2021).
- ・ 平田一耕
 薬剤師外来においてインフリキシマブ血中濃度定性試
 験を使用し関節リウマチが改善した1症例
 平田一耕、稲垣孝規、六反田諒、舟越亮寛
 日本病院薬剤師会雑誌57、214-219.2021.
- ・ 平田一耕
 周術期の薬学的評価の標準化と薬剤師の介入は臨床評
 価指標を向上し術後合併症の減少に影響を与える;傾向
 スコアマッチングを用いた比較検討
 平田一耕、原田佳弘、大友謙太郎、早坂磨優、寺口徹、
 船木麻美、岩本真弘、渡邊裕子、石塚寛和、舟越亮寛
 日本病院薬剤師会雑誌57、198-208.2021.
- ・ 鈴木正論
 非弁膜性心房細動患者を対象とした直接作用型経口抗
 凝固薬の服薬アドヒアランスの多施設共同大規模実態
 調査

三浦 誠、翁長真一郎、杉山哲大、尾濱直子、宮里弥篤、
合田貴史、國分千代、中村美樹、笹田みどり、鈴木正論、
本田憲一、花村菜月、濱武久美子、秋山裕史、筒井由佳、
荒木哲也、伊花和宏、新沼芳文、森島義行、長田茂幸、
瀧田厚、木村哲也、吉田寿子、新谷歩、関利
医療薬学、47,3,132-144 (2021)

- Satoshi Yuyama
Letermovir administration to prevent cytomegalovirus reactivation is the potential risk of chronic graft-versus-host disease in patients who received haploidentical stem-cell transplantation with post-transplant cyclophosphamide
Toshiki Terao, Ken-Ichi Matsuoka, Kentaro Narita, Takafumi Tsushima, Satoshi Yuyama, Ayumi Kuzume, Rikako Tabata, Daisuke Miura, Masami Takeuchi, Kosei Matsue
Front Oncol. 2021 Apr 29;11:666774.

2) 雑誌関連

- 川名真理子
PART02 症状別のアセスメントと治療・ケア
1. 神経症状 ①せん妄 ②睡眠障害
月刊ナーシング、41,6,43-61 (2021)
- 川名真理子
第241回新薬くろ〜ずあっぷ 「エンレスト錠50mg、100mg、200mg」
調剤と情報、27,8,1414-1421 (2021)
- 鈴木正論
慢性心不全患者の薬物動態、「ニガテさん」のための薬物動態
調剤と情報、27,10,174-179 (2021)
- 鈴木正論
循環ドリル[8]心不全と頻脈性不整脈(心房細動)の蜜月な関係とは? -心房細動と心不全が相互に及ぼす影響を考察してみよう! -
月間薬事、63,16,107-115 (2021)
- 小倉宏之
多職種によ〜く伝わる 薬学的思考を活かした診療録記載のまとめ方 第4回: 検査値に関連した副作用評価と医師への提案
舟越亮寛
月間薬事、63,5,150-157 (2021)
- 舟越亮寛
薬剤師と医師との協働で世界水準の患者安全を支える診療報酬iNFOナビ 情報サイト エキスパートインタビュー (取材日時: 2020年11月12日)
- 舟越亮寛
オスタバロ皮下注カートリッジ 3mg (アバロパラチド酢酸塩)
株式会社じほう「調剤と情報」連載原稿 2021年11月号
- 舟越亮寛
抗凝固薬
日本病院薬剤師会雑誌「シリーズ」 WEB形式メディア
カルオンライン掲載
- 舟越亮寛

保健薬局薬剤師のバイオシミラーに関する意識調査
坂巻弘之、舟越亮寛、有澤賢二、森昌平、磯部総一郎、
阿部雄太、孫尚孝、武田浩二
薬理と治療 (JPT) 2021年10月20日発行

- 舟越亮寛
薬局来局患者のバイオシミラーに関する意識調査
坂巻弘之、舟越亮寛、宮原克明、鈴木裕司、小林真裕美、
長沼未加、武田浩二
「新薬と臨牀」第70巻第11号別冊 (2021年11月10日発行)
- 平田一耕
術後の嘔気嘔吐対策: 薬剤師の関与と薬学的アプローチ
臨床麻酔、45,3,2021.
- 川名真理子
第248回新薬くろ〜ずあっぷ
「ジクトルテープ75mg」
調剤と情報、28,2,242-250 (2022)
- 横山泰昭
感染症に対するステロイド治療の考え方と使い方④
敗血症
林 淑朗
薬局、72,5,55-58(2021)

3) 学会・研究会発表

- Seiya Abe
Implementation of a multi-country, virtual professional development program within PEACE and the Catholic University of Health and Allied Sciences (CUHAS)
Mana Ito, Megumi Howard, Seiya Abe, Haruno Nunome, Yasuko Kurata, Fumi Okamoto, Daisuke Sato, Shimpei Aoyama, Kayo Hamasaki, Deogratias Katabalo, and Winifrida Minja
2021 ACCP Virtual Poster Symposium
- 和泉早矢香、鈴木正論
高齢入院患者におけるフレイルと薬剤負荷との関連性
高嶋美涼、森崎結香子、前田絢子、和泉早矢香、鈴木正論、
舟越亮寛、真野泰成
第23回日本医薬品情報学会

4) 講演・シンポジウム

- 舟越亮寛
バイオシミラー製剤についてーIBD領域を中心にー
「アダリムマブBS [FKB] 発売記念講演会in東北」
2021年4月7日
- 川名真理子
シンポジウム16「疼痛やせん妄等の症状緩和薬物療法の実践」
第14回日本緩和医療薬学会年会
2021年5月13日〜16日
- 舟越亮寛
シンポジウム8「薬剤師が担う医療安全「点から面へ」
シンポジウム10「フォーミュラリーがもたらす未来は」
日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会 (オンデマンド配信)
2021年8月28日〜9月5日
- 舟越亮寛

シンポジウム32「地域包括ケアシステムにおける患者と医療をエビデンスで支える地域フォーミュラリーの構築を目指して

シンポジウム70「病棟業務を可視化する指標と方法を最高するー今こそ示したい！病棟における薬剤師のプレゼンスー

第31回日本医療薬学会年会 (WEB開催)

2021年10月9日～10日

・鈴木正論

シンポジウム20「周術期における抗血栓療法～どの時点で、何を評価し、どう対応する？」

日本医療薬学会第30回年会

2021年10月24日

・舟越亮寛

教育講演「医薬品安全管理」

病院薬剤師会 東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2021

2021年10月30日

5) 講師

・小倉宏之

病院薬剤師の地域医療への関わり方～外来がん化学療法事例を参考に～

地域医療Web Seminar in Boso

2021年1月13日

・横山泰昭

感染症禍における薬剤部の活動

第3回病棟薬剤師セミナー

2021年1月28日

・渡部和幸

亀田総合病院における精神神経科病棟での薬剤師の役割
精神科臨床薬学研究会関東甲信越ブロック講演会 (千葉会場)

2021年3月28日

・舟越亮寛

地域フォーミュラリーの策定と課題

「Advanced Pharmacist Seminar in 千葉埼玉」

2021年4月17日

・平田一耕

薬剤師外来における関節リウマチ治療選択への関与
南房総臨床薬学Webセミナー

2021年5月13日

・舟越亮寛

新型コロナウイルスワクチンと薬剤師の役割

安房薬剤師会薬業会 研修会

2021年5月27日

・平田一耕

高齢リウマチ患者における連携時の薬学的問題点
南総エリアリウマチ連携の会

2021年5月27日

・舟越亮寛

地域フォーミュラリーの策定と課題

「Advanced Pharmacist Seminar in 関東甲信越」

2021年5月29日

・平田一耕

炎症性腸疾患診療における薬剤師外来の重要性

南房総臨床薬学Webセミナー

2021年6月10日

・平田一耕

薬剤師と医師の立場から検討する処方選択のポイントと医薬連携のメリット

Lilly RA 医薬連携の未来を考える会

2021年6月14日

・平田一耕

『multimorbidity(マルチモビディティ：多疾患併存)の診療～ポリファーマシー、薬剤調整を超えて～

日本プライマリ連合学会 プライマリ・ケア認定薬剤師研修会

2021年6月20日

・舟越亮寛

千葉県病院薬剤師会 印旛支部研修会

2021年6月24日

・舟越亮寛

地域フォーミュラリーの策定と課題

「Advanced Pharmacist Seminar in 東京神奈川」

2021年6月26日

・舟越亮寛

医薬品リスク管理計画 (RMP)のこれまでとこれから

第23回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (WEB開催)

2021年6月26日

・阿部誠也

バルプロ酸ナトリウム細粒使用患児を対象とした自宅での医薬品保管状況の実態

第15回多施設若手薬剤師研究会

2021年7月6日

・横山泰昭

ASTと薬剤師

城西国際大学 2021年度 病院機能特論演習

2021年7月8日

・舟越亮寛

薬剤師によるタスク・シフティングを考える

第4回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum

2021年7月10日

・川名真理子

「腎性貧血治療薬の種類と特徴」

医療政策Webセミナー

2021年8月5日

・平田一耕

乾癬患者のSDM(共同意思決定)を含む薬物選択について
鴨川Psoriasis Web Conference

2021年8月24日

・舟越亮寛

バイオシミラー導入による病院経営面での影響について
静岡県病院薬剤師会 Biosimilars Symposium

2021年9月10日

・伊勢崎竜也

第1回 がん薬薬連携 One more step!

2021年9月30日

・舟越亮寛

これからの薬剤師による医療完全対策～最近の院内外の取り組みを含めて～

和歌山県病院薬剤師会 医療安全推進委員会 第28回
医療安全管理に関する研修会

2021年10月2日

- ・舟越亮寛
これからの薬剤師によるバイオ医薬品関連の医療安全対策
第467回 八戸地区病院薬剤師会 薬学例会
2021年10月14日
 - ・舟越亮寛
病院における感染防止策
新潟県病院薬剤師会 リスクマネジメント研修会
2021年10月17日
 - ・舟越亮寛
病院薬剤師業務の進展2021
Pharmacy Director Seminar 2021
2021年10月25日
 - ・舟越亮寛
病院薬剤師のタスクシフティング推進時の留意点
千葉県病院薬剤師スキルアップセミナー
2021年10月29日
 - ・舟越亮寛
病院薬剤師による医療安全対策
日本病院薬剤師会 第31回北陸ブロック学術大会 特別講演会
2021年11月7日
 - ・舟越亮寛
医療安全対策委員会の取り組みについて～医療安全に関する最近の話題～
日本病院薬剤師会 令和3年度医薬品安全管理責任者等講習会 (WEB開催)
2021年11月12日
 - ・舟越亮寛
医療安全における医薬品関連の話題～適応外使用の考え方を含めて～
福島県立医科大学付属病院 院内研修会
2021年11月17日
 - ・川名真理子
「当院における緩和薬物療法の現状について」
一社)安房薬剤師会薬業会研修会
2021年11月18日
 - ・舟越亮寛
医療制度の方向性・病院経営とバイオシミラー
バイオシミラーのNew Paradium
2021年11月25日
 - ・舟越亮寛
フォーミュラリーを利活用したバイオシミラーの使用促進
Live Symposium ～これからの地域医療を考える～
2021年12月2日
 - ・舟越亮寛
ダビガトラン薬物動態アドバイザーボード会議
2021年12月12日
 - ・平田一耕
Lilly JAK 医薬連携web
2022年1月14日
 - ・岡田拓朗
非意図的ドーピングを防ぐために～アンチ・ドーピングの基礎知識～
NSCA ジャパン HPC ウェビナー
2022年2月9日
- 6) 講義・研修実績
- <院外>
- ・亀田医療大学講義 (全34回)
 - ・亀田医療技術専門学校講義 (全7回)
- <院内>
- ・看護部向け講義 (ナースのための薬学講座) (全12回)
 - ・集中講義 (全5回)
 - ・特定行為に関する講義 (全9回)
- 7) 座長・オーガナイザー・司会
- ・舟越亮寛
千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー
2021年4月22日
 - ・舟越亮寛
千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー
2021年5月13日
 - ・舟越亮寛
千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー
2021年5月20日
 - ・舟越亮寛
千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー
2021年6月10日
 - ・舟越亮寛
スペシャルポピュレーションにおける医薬品情報の活用と考え方
令和3年度第1回JASDIフォーラム (WEB開催)
2021年8月1日
 - ・舟越亮寛
最新の医学的知見を現場の医療関係者に広く普及
医療政策WEBセミナー
2021年8月5日
 - ・舟越亮寛
鴨川Psoriasis Web Conference
2021年8月24日
 - ・舟越亮寛
千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学セミナー
2021年8月26日
 - ・伊勢崎竜也
「がんゲノム医療最前線」
南房総臨床薬学Webセミナー
2021年10月7日
 - ・舟越亮寛
千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学WEBセミナー
2021年10月28日
 - ・舟越亮寛
薬剤師教育を見つめなおす
第11回日本薬剤師レジデントフォーラム
2021年11月6日
 - ・舟越亮寛
麻薬、がん性疼痛の治療に関する課題や知識の共有を通し医療に貢献する
安房薬剤師会薬業会 研修会
2021年11月18日
 - ・舟越亮寛
千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学WEBセミナー
2021年11月26日
 - ・舟越亮寛

講演会「Pharmacist Seminar」
2021年12月1日

8) その他

- ・鈴木正論
薬物療法専門薬剤師ワークショップ「～ジェネラリストとしての薬剤師力を磨く(2)～実践！複合疾患を有する患者への薬学的アプローチ」
日本医療薬学会第30回年会
2020年10月24日
- ・川名真理子
緩和ケア研修会-集合研修-
2021年4月3日
- ・川名真理子
ワークショップ3「緩和医療と医療安全 振り返るイシキーロールプレイを交えて」
第14回日本緩和医療薬学会年会
2021年5月13日～16日
- ・舟越亮寛
妊産婦安全推進シンポジウム
世界患者安全の日記念イベント パネルディスカッション
2021年9月20日
- ・平田一耕
関節リウマチ治療薬の適正使用 ～薬剤師との医療連携～
関節リウマチwebセミナー
2021年10月29日
- ・伊勢崎竜也
「大腸がん患者の症例検討」
令和3年度第1回千葉県がん診療連携拠点病院薬剤師研修会
2022年2月5日
- ・川名真理子
「胃のトラブル」「おなかの調子」「便秘・痔」「女性特有の悩み」
現場で役立つ！OTC医薬品の特徴と選び方(書籍)
- ・平田一耕、舟越亮寛
高齢者に対する消化器外科minimal requirements
メジカルビュー社
- ・伊勢崎竜也
医療薬学Vol.46、No.3、126-137
伊勢崎竜也、宮川慧子、平田一耕、成田健太郎、舟越亮寛
2021年度日本医療薬学会 医療薬学誌論文賞

【2022年度】

<学術関係発表者>

1) 原著論文・症例報告

- ・岡田拓朗
Practical Efficacy of Prior Checks on Athletes' Medication Use for the Prevention of Unintentional Doping
松尾史朗、島田和典、南野徹
Substance Use & Misuse, 57(13),1946-1952 (2022)
- ・寺口徹
COVID-19 対策 手術室に求められる対応とは -薬

剤師の立場から-

舟越亮寛

日本手術医学会誌 43(2):142-145,2022.

- ・船木麻美
Factors Affecting Patients' Acceptance of Switching to Biosimilars Are Disease-Dependent: A Cross-Sectional Study
平田一耕、伊勢崎竜也、舟越亮寛
Biological and Pharmaceutical Bulletin,46, 128-132 (2023)
- ・湯山聡
イサツキシマブ投与方法標準化における有用性と安全性の評価
伊勢崎竜也、舟越亮寛
日本臨床腫瘍薬学会雑誌,,26,9-15 (2022)
- ・平田一耕
Shared decision-making practices and patient values in pharmacist outpatient care for rheumatic disease: A multiple correspondence analysis
花岡俊輔、六反田諒、舟越亮寛、林宏行
J. pharm. pharm. sci., 20 January 2023
- ・平田一耕
術後の嘔気嘔吐対策:薬剤師の関与と薬学的アプローチ
臨床麻酔(真興交易)45(3)2021年
- ・菅野智
リユープロレリン製剤の供給停止に伴う患者の影響調査
日本病院薬剤師会雑誌 59(3):257-262,2023.
松本良順、伊勢崎竜也、舟越亮寛
- ・大場啓真
アテローム血栓性脳梗塞患者のCYP2C19がpoor metabolizerの症例に対して抗血小板薬の選択に薬学的介入をした1例
鈴木正論、伊丹雄也、萩野琢郎、舟越亮寛
日本病院薬剤師会雑誌,59,41-45,(2023).

2) 雑誌関連

- ・舟越亮寛
特集 早期に見極め すばやく対応！重篤副作用の予防と治療「RMPはこう使う！」
月刊薬事、64,8,1563-1566 (2022)
- ・舟越亮寛
特集 早期に見極め すばやく対応！重篤副作用の予防と治療「アナフィラキシー」
月刊薬事、64, 8, 1596-1600 (2022)
- ・舟越亮寛
薬薬連携のススメ ①入院
①調剤と情報 ②Vol.28 No.10 ③じほう
- ・舟越亮寛
ジェネリック医薬品の特徴を再確認
①調剤と情報 ②Vol.28 No.10 ③じほう
- ・舟越亮寛
見逃せない！検査・手術前休薬リスト
①調剤と情報 ②Vol.28 No.10 ③じほう
- ・舟越亮寛
フォシーガ®錠
①調剤と情報/新薬くろ～ずあつぷ ②254回 Vol.28 No.11 ③じほう

- ・舟越亮寛
カログラ®錠 120mg
①調剤と情報/新薬くろ〜ずあっぷ ②258回 Vol.28 No.16 ③じほう
- ・川名真理子
特集 患者の苦痛にどう寄り添う? なにができる? がん緩和ケア「疼痛以外の症状のマネジメント」
調剤と情報、28,5,680-689 (2022)
- ・川名真理子
特集 早期に見極め すばやく対応! 重篤副作用の予防と治療「WEBから信頼性の高い副作用情報を得るには?」
月刊薬事、64,8,1556-1558 (2022)
- ・川名真理子
第253回新薬くろ〜ずあっぷ「レットヴィモカプセル」
調剤と情報、28,9,1470-1478 (2022)
- ・川名真理子
処方意図がわかる!
外来でよくみる29疾患の最新ガイドライン虎の巻「夜間頻尿」
調剤と情報、28,14,2488-2496 (2022)
- ・平田一耕
α4インテグリン阻害薬(カロテグラストメチル)
調剤と情報 2023年1月号(Vol.29 No.1)
- ・北原加奈之
ハイリスク薬フォローアップ、4バイタルサインの基礎——血圧、脈拍、体温、呼吸
月刊薬事2022年7月増刊号 Vol.64 No.10.2022年

3) 学会・研究会発表

- ・園部あみ
血液・腫瘍内科におけるPBPM導入後の評価とその課題
第11回日本臨床腫瘍薬学会学術大会2022
2022年3月12日~2022年3月13日
- ・菅野智
リユープロレリン製剤の供給停止に伴う患者の影響調査
日本薬学会第142年会
2022年3月25日~2022年3月28日
- ・村井里帆
当院における抗凝固療法中の拮抗薬の使用実態調査
日本薬学会第142年会
2022年3月25日~2022年3月28日
- ・鈴木義則
医薬品品質管理における温度管理の精度向上
第24回日本医療マネジメント学会学術総会
2022年7月8日~2022年7月9日
- ・吉川佳那
特定の背景を有するCOVID-19患者へのレムデシビル
使用報告 第30回クリニカルファーマシーシンポジウム
医療薬学フォーラム2022
2022年7月23日~2022年7月24日
- ・平田一耕
バイオシミラーへの切り替えの患者の受け入れに影響
を与える要因第16回日本ジェネリック医薬品・バイオ
シミラー学会
2022年8月6日~2022年8月7日
- ・助川恵理
院内急変対応におけるエマージェンシーバックの使用

状況の調査

- 日本病院薬剤師会 関東ブロック第52回学術大会
2022年8月20日~2022年8月21日
 - ・武藤将輝
当院における統合失調症に対する持続性抗精神病剤の
処方実態調査(未定)
日本病院薬剤師会 関東ブロック第52回学術大会
2022年8月20日~2022年8月21日
 - ・與儀早和子
重量監査システムを用いた抗がん剤調製に必要な
医薬品情報の開示状況に関する実態調査
日本病院薬剤師会 関東ブロック第52回学術大会
2022年8月20日~2022年8月21日
 - ・横山泰昭
基幹病院におけるBCPの実際
第32回日本医療薬学会年会
2022年9月23日~2022年9月25日
 - ・秋山眞太郎
ゲンタマイシン硫酸塩による前庭神経障害が疑われた
症例におけるフロセミド併用が及ぼす影響(症例報告)
第32回日本医療薬学会年会
2022年9月23日~2022年9月25日
 - ・寺口徹
当院における手術室薬剤師業務のタスク・シフト/シェ
アの現状分析 第44回日本手術医学会総会
2022年10月14日~2022年10月15日
 - ・片岡柚香里
Assessing clinical competence of entry- to
advanced- level pharmacists using case-based
discussions in Japan
FAPA2022 / The 28th Federation of Asian
Pharmaceutical Associations Congress
2022年11月9日~2022年11月12日
- ### 4) 講師
- ・平田一耕
外来診療の医薬連携における薬剤選択のポイント,Lilly
JAK 医薬連携の会
2022年1月14日
 - ・北原加奈之
実症例でみる有害事象に対するアプローチと副作用報
告,AMED委託研究 医薬品等規制調和・評価研究事業
副作用報告研究班 2022年度第1回WEB講演会
2022年1月28日
 - ・平田一耕
IBD update,2022年3月2日
 - ・平田一耕
IBD外来診療における薬剤師の役割 ステララ
®インターネットシンポジウム~Healthcare
Professionals Collaboration on IBD~
2022年3月4日
 - ・北原加奈之
有害事象に対する薬学的推論 東京都中小病院実務研
究会
2022年3月18日
 - ・平田一耕
乾癬生物学的製剤薬剤師の立場からの選択 薬剤師の

- ための乾癬webセミナー
2022年3月25日
- ・平田一耕
薬剤師外来における乾癬治療への関わり方 薬剤師の
ための乾癬講演会
2022年4月14日
 - ・舟越亮寛
令和4年度診療報酬改定を踏まえた薬剤部業務の変化
について(バイオシミラーの考え方も含めて)千葉県病
院薬剤師会 南部支部研修会
2022年4月15日
 - ・横山泰昭
第68回特別ゼミナール薬物治療モニタリング研究会
2022年4月16日
 - ・平田一耕
RA治療薬を中心に製剤的特徴と薬物動態について
Lilly Pharmacology Web Forum
2022年4月21日
 - ・平田一耕
外来診療の医薬連携と薬剤師の視点からの薬剤選択
Lilly Immunology Conference
2022年5月12日
 - ・舟越亮寛
医療の質を担保したタスクシフティング・シェアリン
グ 明日の医療を考える会for Hospital Pharmacist
2022年6月3日
 - ・舟越亮寛
病院薬剤師業務を取り巻く周辺環境をチャンスに変え
る方策2022
令和4年 宮城県病院薬剤師会総会特別講演会
2022年6月4日
 - ・舟越亮寛
薬局長育成塾
2022年6月10日
 - ・舟越亮寛
医薬品安全管理責任者の責務について 日本病院薬剤
師会 医薬品安全管理責任者等講習会(基礎編)
2022年6月11日
 - ・舟越亮寛
日本医療薬学会 第5回フレッシューズ・カンファレ
ンス
2022年6月12日
 - ・舟越亮寛
システムを利用した薬剤情報閲覧における留意点及び
備えるべき知識について 千葉県病院薬剤師会 南房
総臨床薬学Webセミナー
2022年6月16日
 - ・北原加奈之
病歴聴取 OPQRST 東京都病院薬剤師会 臨床推論
研究会(通年)第1回
2022年6月23日
 - ・舟越亮寛
病院薬剤部におけるリスクコミュニケーションと実際
の業務についての紹介 2022年度安全管理・調査(PV)
エキスパート研修講座
2022年6月29日
 - ・平田一耕
- 免疫疾患における薬剤師の現在と今後の役割 ～関節リ
ウマチを中心に～ 日本大学薬学障害教育講座
2022年6月29日
 - ・舟越亮寛
周術期における薬剤師の専門性発揮のための業務合理
化の必要性 第5回広島公的病院薬剤部長マネジメン
トカンファレンス
2022年6月30日
 - ・北原加奈之
病歴聴取の基礎 日本服薬支援研究会 第1回
2022年7月8日
 - ・宇田川雄也
病棟薬剤師の視点から見た糖尿病注射剤治療 糖尿病
注射剤WEBセミナー
2022年7月12日
 - ・舟越亮寛
バイオシミラー使用促進のための現況と課題 北見薬
剤師会講演会
2022年7月13日
 - ・横山泰昭
病院機能特論演習 城西国際大学薬学部
2022年7月14日
 - ・舟越亮寛
地域医療安全を担保する リスク最小化活動 2022
岩手県薬剤師セミナー
2022年7月14日
 - ・舟越亮寛
シンポジウム9:医療安全部門担当薬剤師が今後期待
する薬剤部門薬剤師の役割
シンポジウム11:周術期医療における薬学的介入効
果を実証する調査・研究 第5回 日本病院薬剤師会
Future Pharmacist Forum
2022年7月16日
 - ・舟越亮寛
地域フォーミュラの策定と課題 ～糖尿病治療を中心に～
講演会 [Pharmacist seminar in Hokkaido]
2022年7月21日
 - ・平田一耕
RA治療薬を中心に製剤的特徴と薬物動態について
Lilly Pharmacology Web Forum
2022年8月5日
 - ・舟越亮寛
日本病院薬剤師会 薬学生向け病院薬剤師に関する講演
2022年8月8日
 - ・舟越亮寛
周術期医療における薬剤師の専門性発揮のための業務
合理化の必要性
第2回 East Kobe Pharmacist Director's Seminar
2022年8月22日
 - ・舟越亮寛
周術期医療における薬剤師の専門性発揮のための業務
合理化の必要性
第6回熊本市公的病院薬剤部長マネジメントカンファ
レンス
2022年8月26日
 - ・舟越亮寛
円滑な在宅医療への移行にむけた病棟活動B r i d g e

- Web Seminar
2022年9月5日
- ・舟越亮寛
周術期管理における薬剤師の役割 ～医療安全の視点から～
福岡県病院薬剤師会医療安全対策WEBセミナー
2022年9月6日
 - ・舟越亮寛
周術期医療における薬剤師の専門性発揮のための業務
合理化の必要性 第10回 京都 Pharmacist Expert
Meeting
2022年9月10日
 - ・舟越亮寛
周術期管理チームにおける薬剤師の更なる業務展開
Live Symposium for Pharmacist
2022年9月12日
 - ・舟越亮寛
バイオシミラー使用促進の現況と課題(病院経営面に与え
る影響) 近畿南部エリア Pharmacist WEBセミナー
2022年9月28日
 - ・舟越亮寛
薬剤師の立場からみた神経障害性疼痛治療について
安房薬剤師会薬業会研修会
2022年9月29日
 - ・北原加奈之
病歴聴取とバイタルサイン 日本服薬支援研究会 第2回
2022年10月7日
 - ・平田一耕
RA治療薬を中心に製剤の特徴と薬物動態について
Lilly Pharmacology Web Forum
2022年10月14日
 - ・舟越亮寛
バイオシミラーに関する取り組みと病院経営への貢献
地域医療連携WEB Seminar
2022年10月19日
 - ・舟越亮寛
薬剤師が企業くすり相談窓口に求めること 日本製薬工
業協会薬相談対応検討会
2022年10月21日
 - ・舟越亮寛
Pharmacist Seminar
2022年10月29日
 - ・北原加奈之
病棟薬剤師の役割と今後の課題 医療安全講義(Web
録画配信)
2022年11月1日
 - ・北原加奈之
検査所見の異常(肝障害) 日本服薬支援研究会 第3回
2022年11月4日
 - ・舟越亮寛
医療安全対策委員会の取り組みについて～医療安全に
関する最近の話題～ 日本病院薬剤師会 医薬品安全
管理責任者等講習会(基礎編)
2022年11月11日
 - ・平田一耕
メトジェクトについて エーザイ社内研修会メトジェクト
2022年11月11日
 - ・舟越亮寛
- これからの医療情報業務のあり方2022 秋田県病院
薬剤師会生涯教育研修会
2022年11月16日
- ・舟越亮寛
術後疼痛の適正化に向けた薬剤師の関わり Pain Live
Symposium ～術後頭痛マネジメント～
2022年11月17日
 - ・北原加奈之
薬学臨床推論
・病態把握と副作用の判断 南房総臨床薬学セミナー
2022年11月24日
 - ・舟越亮寛
副作用救済制度の医療機関での実践例と課題
2022年度第1回薬剤業務・学術情報委員会研修会
2022年11月24日
 - ・北原加奈之
生理学的所見(心電図) 日本服薬支援研究会 第4回
2022年12月2日
 - ・北原加奈之
臨床推論・副作用編(薬物性肝障害) 循環器病棟に配
属になる薬剤師のための基礎講座「臨床推論を身につ
けよう」
2022年12月5日
 - ・舟越亮寛
バイオシミラー使用促進の現況と課題(病院経営面に与
える影響) Pharmacy Director Seminar in 南河内
2022年12月6日
 - ・平田一耕
関節リウマチ患者の共同意思決定を含む
薬剤師の関わりと薬物選択について 南房総臨床薬学
セミナー(君津、木更津)
2022年12月8日
 - ・平田一耕
周術期の薬学的評価の標準化と薬剤師の介入は臨床評
価指標を向上し術後合併症の減少に影響を与える;傾
向スコアマッチングを用いた比較検討 秋田県病院薬
剤師会学術講演会
2022年12月9日
 - ・伊勢崎竜也
内分泌療法 がん看護学持論Ⅳ
2022年12月14日
 - ・舟越亮寛
病院薬剤師と医療DXの新たな展開 JP病院薬剤師
フォーラム
2023年1月19日
 - ・北原加奈之
有害事象に対する薬学的推論 鹿児島県南薩薬剤師会
2023年1月20日
 - ・舟越亮寛
今後変化する薬剤師の役割 Innovation Forum for
Clinical Pharmacist
2023年1月25日
 - ・舟越亮寛
バイオシミラーに関する取り組みと病院経営への貢献
Pharmacist Web Seminar in CHIKUGO
2023年1月27日
 - ・北原加奈之

臨床推論 大垣市民病院薬剤部講演

2023年2月2日

- ・北原加奈之
感度・特異度10本ノック 東京都病院薬剤師会
臨床推論研究会(公開講座)第1回
2023年2月11日
- ・川名真理子
医薬品情報の利活用 第49回長野県病院薬剤師会薬剤師専門講座
2023年2月14日
- ・川名真理子
周産期領域を含む医薬品情報の利活用 宮城県病院薬剤師会研修会
2023年2月14日
- ・北原加奈之
P5 講義：臨床推論 東京薬科大学講義
2023年2月16日
- ・小倉宏之
経口抗がん薬を安全に使用するための管理について考える 令和4年度第1回千葉県がん診療連携協議会薬剤師研修会
2023年2月18日
- ・平田一耕
薬剤師によるIBD治療薬の情報提供および指導のコツ 炎症性腸疾患を考える会
2023年2月20日
- ・北原加奈之
低ナトリウム血症の症例 東京都病院薬剤師会 臨床推論研究会(公開講座)第2回
2023年3月11日
- ・北原加奈之
臨床推論～がんを中心としたCTの見方 第40回がん薬物療法セミナー
2023年3月17日
- ・寺口徹
周術期と術後疼痛 千葉県病院薬剤師会医療政策委員会 令和4年度医療政策・診療報酬研修会
2023年3月18日
- ・北原加奈之
検査所見からみる臨床推論(肝障害編) ～心不全を既往にもつ症例を例に～ 領域別カンファレンス研修会
2023年3月21日
- ・舟越亮寛
バイオシミラー使用促進の現況と課題 大腸癌UP to Date 202/5/10
- ・大友謙太郎
アンチ・ドーピング (公財)日本水泳連盟 2022年度公認水泳コーチ3・コーチ4研修会
2022年12月1日～2023年1月31日

5) 講義・研修実績

<院外>

- ・亀田医療大学講義(全34回)
- ・亀田医療技術専門学校講義(全7回)

<院内>

- ・看護部向け講義(ナースのための薬学講座)(全12回)
- ・集中講義(全5回)

・特定行為に関する講義(全9回)

6) 座長・オーガナイザー・司会

- ・舟越亮寛
薬物療法のタスク・シフティングの取り組みと舞台裏～PBPM副作用モニタリングの充実と課題を含めて 千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー
2022年4月21日
- ・舟越亮寛
令和4年度診療報酬改定のポイントと病院薬剤師の未来 千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー
2022年5月12日
- ・舟越亮寛
Advanced Pharmacist Seminar in 千葉埼玉
2022年6月23日
- ・北原加奈之
意識障害に問題のある患者の対応 日本医療薬学会
2022年9月23日
- ・舟越亮寛
令和4年度日本薬剤師レジデント制度研究会 第5回レジデントカンファレンス
2022年10月29日
- ・伊勢崎竜也
尿路上皮癌の総論と薬物療法 千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー
2022年12月1日
- ・北原加奈之
病歴聴取 Second Stage ～OPQRSTを斬る！～ 東京都病院薬剤師会臨床推論研究会(通年)第3回
2022年12月3日
- ・舟越亮寛
薬剤部門活性化のための組織 令和4年度第2回中小病院薬剤師実践セミナー
2022年12月4日
- ・舟越亮寛
安房薬剤師会薬業会マッグミット販売20周年記念講演会
2022年12月8日
- ・舟越亮寛
医師・薬剤師で考える循環器領域でのチームの実践 Pharmacist Seminar
2022年12月16日
- ・安室修
悪性リンパ腫診療の基本と実践 千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー
2023年1月19日
- ・伊勢崎竜也
『がん薬物療法におけるアピアランスケア 2022年度 第3回がん専門・認定薬剤師講習会
2023年2月11日
- ・伊勢崎竜也
造血器腫瘍における分子標的薬のTDM 千葉県病院薬剤師会 南房総臨床薬学Webセミナー
2023年2月22日
- ・伊勢崎竜也
基礎から学ぼう 大腸がん 2022年度第1回がん専門・認定薬剤師講習会
2023年9月17日

- ・伊勢崎竜也
血液がん 多発性骨髄腫を学ぼう 2022年度第2回がん
専門・認定薬剤師講習会
2023年11月12日

7) その他

- ・平田一耕
Lilly JAK Conference in Chiba
2022年3月24日
- ・川名真理子
緩和ケア研修会 (集合研修)
2022年4月2日
- ・北原加奈之
ワンセンテンスサマリー 東京都病院薬剤師会 臨床
推論研究会 (通年) 第2回
2022年9月7日
- ・北原加奈之

症例 (微生物) 毎に考える適切な抗菌化学療法とは
令和4年度日本薬剤師レジデント制度研究会
第5回レジデントカンファレンス
2022年10月29日

- ・北原加奈之
Assessing clinical competence of entry- to
advanced-level pharmacists using case-based
discussions in Japan FAPA2022
2022年11月10日
- ・平田一耕
JAK基礎研究会
2022年3月6日

16 専門・資格 (2022年4月1日現在)

<認定・専門領域薬剤師>

- ・該当なし

<専門薬剤師資格取得者>

- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師 28名
- ・日本病院薬剤師会 精神科薬物療法認定薬剤師 1名
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師 7名
- ・日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師 1名
- ・日本薬剤師研修センター/日本小児臨床薬理学会 小児
薬物療法認定薬剤師 1名
- ・日本薬剤師研修センター/日本生薬学会 漢方薬・生薬
認定薬剤師 2名
- ・日本アンチ・ドーピング機構 スポーツファーマシスト 6名
- ・日本医薬品情報学会 医薬品情報専門薬剤師 4名
- ・日本老年薬学会 老年薬学認定薬剤師 1名
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 1名
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療専門薬剤師(更新中)
1名
- ・日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム(NST)専門
療法士 5名
- ・日本麻酔科学会 術後疼痛管理研修修了 2名
- ・日本麻酔科学会 周術期管理チーム認定 3名
- ・日本病院会 医療安全管理者 1名
- ・日本精神薬学会 精神薬学会認定薬剤師 1名
- ・日本食品安全協会 健康・食品管理士 1名
- ・日本緩和医療薬学会 緩和医療暫定指導薬剤師 1名

- ・日本緩和医療薬学会 緩和医療専門薬剤師 1名
- ・日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 2名
- ・日本在宅薬学会 バイタルサイディレクター 1名
- ・日本在宅薬学会 バイタルサインエヴァンジェリスト
1名
- ・日本骨粗鬆症学会 骨粗鬆症マネージャー 1名
- ・日本核医学会 核医学認定薬剤師 4名
- ・日本医療薬学会 薬物療法指導薬剤師(申請中) 1名
- ・日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師 1名
- ・日本医療薬学会 認定薬剤師 1名
- ・日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師 4名
- ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師 1名
- ・日本医療薬学会 がん指導薬剤師 2名
- ・日本医療経営実践協会 医療経営士 3名
- ・日本医療情報学会 医療情報技師 4名
- ・日本アロマ環境協会 アロマセラピー検定1級 1名
- ・一般社団法人 日本造血・免疫細胞療法学会 HCTC認
定講習I修了 2名
- ・リウマチ財団登録薬剤師 1名
- ・ICD(インフェクションコントロールドクター) 1名

<BLS, ACLS資格の取得薬剤師>

- ・BLS認定者 85名(うち2名BLS インストラクター資格
取得者を含む)
- ・ACLS認定者 67名(うち1名ACLS インストラクター
資格取得者を含む)



* 亀田総合病院 HP - 薬剤部門のご紹介 -



<https://www.kameda.com/>
https://medical.kameda.com/general/medi_services/index_260.html

* Youtube kamedaChannel - 亀田総合病院 薬剤部紹介動画 -



https://www.youtube.com/playlist?list=PLmPNVoJV_0xrzLmXEPMioQhX_iWjadA3Y

* Instagram 公式アカウント



<https://www.instagram.com/kameda.yakuzai/?hl=ja>

* Facebook 公式アカウント



<https://www.facebook.com/kameda.yakuzai/>

亀田メディカルセンター
〒296-8602 千葉県鴨川市東町929 TEL. 04-7092-2211(代)
2023年 11月
発行：医療法人鉄蕉会 薬剤部
発行責任者：舟越亮寛
作成：広報企画室
亀田ホームページ <https://www.kameda.com>